News Release

2026 年 10 月 16 日

第一生命保険株式会社
一般財団法人第一生命財団

「都市の緑３表彰」および
第一生命賞 特別企画『The Garden of Life』の受賞者決定

第一生命保険株式会社（代表取締役社長：隅野俊亮）と一般財団法人第一生命財団（理事長：渡邉光一郎）が支援する「都市の緑３表彰」（緑の環境プラン大賞、緑の都市賞、緑化技術コンクール）の受賞者が別紙のとおり決定しました。

１．第 37 回「緑の環境プラン大賞」

（主催：公益財団法人都市緑化機構、一般財団法人第一生命財団）

1990 年に創設。同年に開催された「国際花と緑の博覧会」の理念を踏まえ、**緑豊かな都市環境で育まれる人と自然とのふれあいやコミュニティの醸成等の実現に資する緑化プランについて、優秀作を表彰するとともに、そのプラン実現のための助成**を行います。

GREEN×EXPO 2027 が開催される 2027 年は、第一生命の創立 125 周年にもあたることから、**シンボル・ガーデン部門　第一生命賞 の特別企画**として、GREEN×EXPO 2027 の会場内を対象地とした「生命のにわ」を表現する『The Garden of Life』をテーマに緑化プランを募集し、受賞団体には会場内での庭の施工費及び会期中の維持管理費を助成します。

２．第 46 回「緑の都市賞」

（主催：公益財団法人都市緑化機構、特別協賛：一般財団法人第一生命財団）

1981 年に創設。緑豊かな都市づくりの推進を目的に、**緑を用いた環境の改善、景観の向上、地域社会の活性化等に先進的かつ意欲的に取組み、良好な成果を挙げている市民団体、企業、公共団体等を表彰**します。

３．第 25 回「緑化技術コンクール」

（主催：公益財団法人都市緑化機構、特別協賛：一般財団法人第一生命財団）

2002 年に創設。**気候変動への適応、2030 年ネイチャーポジティブの実現、官民連携による居心地の良い空間づくりやにぎわい創出等の実現に資する緑化技術について、優れた成果をあげている企業、公共団体、個人等を表彰**します。

（別紙）

第 37 回　緑の環境プラン大賞　審査結果

全国から、シンボル・ガーデン部門「第一生命賞」特別企画 14 点、シンボル・ガーデン部門 10 点、ポケット・ガーデン部門 33 点、計 57 点の応募があり、次の団体の受賞を決定しました。

■シンボル・ガーデン部門　第一生命賞 特別企画（助成額上限：2,500 万円）

GREEN×EXPO 2027 の会場内を対象地とした「生命のにわ」を表現する『The Garden of Life』をテーマにした緑地プラン

■シンボル・ガーデン部門（助成額上限：1,000 万円/点）

緑の持つヒートアイランド緩和効果、生物多様性保全効果等を取り入れることにより人と自然が共生する都市環境の形成、およびコミュニティの活性化に寄与するアイデアを盛り込んだ地域のシンボル的な緑地プラン

■ポケット・ガーデン部門（助成額上限：150 万円/点）

日常的な花や緑の活動を通して、地域コミュニティの活性化や、保育園・幼稚園、学校、福祉施設等での情操教育、身近な環境の改善等に寄与するアイデアを盛り込んだプラン

◎第一生命賞 特別企画 『The Garden of Life』　＜1 点＞

部門	作品名（場所）	受賞者名	概　要	
シンボル・ガーデン	LIFE LINE 命を支える、見えないつながりを巡る 3 つの庭（GREEN × EXPO2027 会場内）	Team LIFE LINE (PICNIC garden design/MOTe)	「誕生・成長・継承」の 3 つの庭で生命の時間軸を描き、日本在来の多年草を中心に季節の移ろいを表現するプラン。バイオネスト等の資源循環の試みに加え、市民や劇団スイッチ総研、造園業者らが協働し、維持管理や演劇を通じて「庭を育てる営み」そのものを共有・継承する共創プロセスが高く評価された。	

◎国土交通大臣賞　＜2 点＞

部門	作品名(場所)	受賞者名	概　要	
シンボル・ガーデン	みどりのはこぶね -命つながる水の回廊-（熊本県宇城市）	豊福地域・農の未来創造協議会	本賞の第 31 回受賞時に整備した取組みの成果を地域に広げるために、子ども・地域住人・専門家・行政が協働で隣接する水路を「水の回廊」として再生するプラン。生態系を回復した実績と、子ども主体の取組みや維持・管理計画が明確で信頼性と継続性の点で評価された。	
ポケット・ガーデン	若者が育てた植物がつなぐ、まちの庭（東京都板橋区）	NPO 法人グッド	自立を支援してきた若者たちが 25 年間育てた約 400 種・600 鉢の植物を駐車場に展示し、地域に開く庭へと再生するプラン。若者が植物の育成や案内を担い、地域とつながる取組みが独創的であり、専従職員と施設利用者が日常的に管理を担う体制が長く確立している点が評価された。	

（別紙）

◎都市緑化機構賞　＜1 点＞

部門	作品名(場所)	受賞者名	概　要	
シンボル・ガーデン	藤の園共生ガーデン ～月形の風土と歴史を未来へつなぐ～ (北海道樺戸郡月形町)	社会福祉法人 藤の園	高齢者施設の荒廃地を再生し、多世代が日常的に憩う交流拠点を創出するプラン。豪雪地の雪解け水を活かしたレインガーデンや、修道院文化をオマージュしたハーブ園、野草を保全するエリアなどを整備。水循環の仕組みや、地域バイオマスを循環利用する手法などが評価された。	

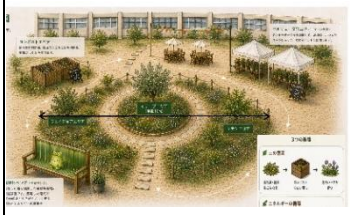
◎第一生命財団賞　＜1 点＞

部門	作品名(場所)	受賞者名	概　要	
ポケット・ガーデン	水害跡地を再生！ 関係人口と創る サーキュラー ガーデン （宮城県石巻市）	一般社団法人 MORIUMIUS FARM	水害を受けた元雄勝中学校跡地で水・土・森を再生するサーキュラーガーデンを創出するプラン。震災で荒れた土地を再生する体験を通じて子どもの情操を育む環境教育プログラムと竹や牡蠣殻などを循環利用して荒廃地を生きた土壌へと再生する点が評価された。	

◎コミュニティ大賞　＜8 点＞

部門	作品名(場所)	受賞者名	概　要	
ポケット・ガーデン	いのち育む赤門 Vana （宮城県仙台市）	学校法人 赤門宏志学院 仙台赤門 短期大学	パーマカルチャーの理念を基盤に、自然と人が共に育つ「小さな森」を創出するプラン。学生・教職員・地域住民が協働し、日常的な維持管理体制が構築されている点が評価された。	
	園庭と“ゆかりの森”がつながるビオトープ更新計画 （茨城県つくば市）	社会福祉法人 花畑福祉会 つくばこどもの森 保育園	園庭の老木管理と樹木更新、落ち葉の循環利用を進めながら「ゆかりの森」とビオトープを保全するプラン。子どもたちが樹木や昆虫等に触れながら、自然の循環を体験的に学べる環境を整えている点が評価された。	
	小さな森と花で つながる庭 （千葉県流山市）	社会福祉法人 高砂福祉会 幼保連携型 認定こども園 たかさご SCHOOL おおたかの森	こども園の園舎入口に、草花や回転式コンポストを配置した花壇を整備するプラン。既存の環境資産を活かしながら、子どもたちの自然体験と地域景観の向上を両立している点が評価された。	

（別紙）

部門	作品名(場所)	受賞者名	概　要	
ポケット・ガーデン	地域にひらく、 小さな「結（ゆい）」 の庭 （滋賀県守山市）	社会福祉法人 慈恵会	地域交流ホームの屋外空間を、多世代が共に育てる「地域の縁側」として再整備するプラン。福祉施設と地域を隔てていたフェンスを撤去し、植栽やベンチの設置を行い、多世代が日常的に関われる場づくりを目指している点が評価された。	
	未来へつながる 循環の庭 （大阪府堺市）	堺市立 新檜尾台小学校	校舎の中庭に「循環」をテーマとした体験型環境教育ガーデンを整備するプラン。民官学が連携した「育てる・循環させる・地域とつながる」活動の体制が明確であり、維持管理の実現性と継続性が評価された。	
	学生と親子をつなぐ 中庭ガーデン （兵庫県神戸市）	学校法人 夙川学院 神戸教育短期大学	大学の中庭を、保育士を目指す学生と地域の親子が自然に親しみ、育ち合うガーデンとして整備するプラン。子育て支援センターとの連携により親子が自然と親しむ場を創出すると共に、学生の実践的な学びの場を創出している点が評価された。	
	ヴォーリズ六甲山荘 森と花の園構想 （兵庫県神戸市）	認定特定 非営利活動法人 アメニティ ２０００協会	国登録有形文化財「ヴォーリズ六甲山荘」の敷地を活用し、歴史的価値の継承と六甲山の生態系保全を両立する庭園を整備するプラン。完成後の利用イメージが明確であり、歴史的建築と自然が調和した景観を楽しめる点が評価された。	
	神山の雨でそだてる、 みんなの縁側 （徳島県名西郡 神山町）	特定非営利 活動法人 みっけ	オルタナティブスクールに、雨水を活用する屋根付きあずまやと水場を整備するプラン。子どもたちが自ら手を動かし、自然環境をつくり育てる体験は、主体性や創造性を育むことが期待できると評価された。	

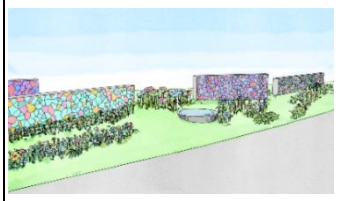
（別紙）

■ シンボル・ガーデン部門 第一生命賞 特別企画 『The Garden of Life』 審査委員会特別賞について

シンボル・ガーデン部門 第一生命賞 特別企画 『The Garden of Life』におきましては、多数のご応募をいただきました。第一生命賞の受賞には至らなかったものの、『The Garden of Life』に込められたメッセージ性、デザイン性、熱意あふれるご提案など、いずれも受賞プランと甲乙つけがたい素晴らしいプランばかりでした。よって、その成果と熱意を称え、「審査委員会特別賞」を新設し、下記 4 団体へ授与することを決定いたしました。

なお、名誉賞としての授与となるため、助成金等の副賞の進呈はございません。

◎審査委員会特別賞 ＜4 点＞

部門	作品名	受賞者名	概　要	
シンボル・ガーデン	環り繋がるガーデン	庭環 未来の造園人＆パートナーズ（阪神園芸株式会社/東京農業大学庭道部/公益財団法人横浜市緑の協会）	人のライフステージ（幼年・青年・熟年）を 3 つの庭で表現し、世代を超えた生命の循環を描くプラン。再資源化資材や山採り植物の活用による環境配慮に加え、学生・企業・市民ボランティアが協働で維持管理と園芸の伝統継承を行う共創体制が評価された。	
	草原分水嶺—The Meadow Watershed—	株式会社 庭 衆（株式会社庭衆/日本庭女子会～にわとわに～/一般社団法人ソーシャルグリーンデザイン協会）	分水嶺と童話『北風と太陽』を重ね、田園・棚田・草原の 3 エリアで自然の生命力や共存を表現するプラン。自然・環境、庭づくり活動に取り組む企業・団体が共創し、物語性のあるデザインや、アイアンオブジェによるアクセント等が評価された。	
	日本の園芸文化を歩いて巡る庭園	株式会社山梅（株式会社山梅/紅陵造園株式会社/ことウェル）	江戸から令和までの日本の園芸文化の変遷を 5 つの時代ゾーンで表現し、人と植物が共に歩んできた『生きた園芸史』が体感できるプラン。植物と人間社会の関わりを描く独自性や在来種主体の持続可能な植栽、地域住民や専門職が一体となって取り組む共創体制が評価された。	
	生命の鼓動～竹がつなぐ生命の循環～	生命を紡ぐ共創プロジェクト（古積造園土木株式会社/有限会社緑光園/公益財団法人横浜市緑の協会）	地下茎で深く結ばれる竹を主役に、割竹の曲線と植物を組み合わせて大地の生命力と鼓動を表現するプラン。地元横浜で竹林・里山保全に取り組む市民団体との共創に加え、竹の生命力に込めたメッセージ性や、高さ 8m に及ぶダイナミックで特徴的な造形物のインパクトが評価された。	

（別紙）

第 46 回　緑の都市賞　審査結果

全国から、緑の市民協働部門 14 点、緑の事業活動部門 9 点、緑のまちづくり部門 2 点、計 25 点の応募があり、次の団体の受賞を決定しました。（活動助成金：「緑の市民協働部門」のみ、5～20 万円）

◎内閣総理大臣賞＜1 点＞

部門	作品名（場所）	受賞者名	概　要	
緑の市民協働	一人一花 in 能登半島（石川県七尾市・輪島市・珠洲市・能登町・穴水町・志賀町・富山県氷見市）	一人一花 in 能登半島 実行委員会	令和 6 年能登半島地震後、公費解体等により急増した空き地を地域住民と全国の支援者、専門家、企業等が協働し、花と緑のコミュニティガーデンへ再生する取組みである。2025 年 3 月の第 1 号「でか山見附ガーデン」開設以降、能登半島に広く展開し、24 カ所のコミュニティガーデンを生み出し、被災家屋の場所の記憶を継承しながら、景観回復・住民交流・地域間連携・関係人口創出・復興への参加機会を育んでいる。	

◎国土交通大臣賞　＜3 点＞

部門	作品名（場所）	受賞者名	概　要	
緑の市民協働	農がつなぐ共生のまちづくり「すみ里プロジェクト」（東京都墨田区）	特定非営利活動法人 寺島・玉ノ井まちづくり協議会	「すみ里プロジェクト」は農地ゼロとなった墨田区で伝統野菜「寺島なす」の復活を主軸に、緑を広げる活動。防災・治水のグリーンインフラや資源循環、環境教育を担う市民手作りの「たもんじ交流農園」に始まり、区内各所へ包摂的で身近な緑の場「ポケットファーム」を創出している。農を軸に人と人、人と自然が共生する里山のあるまちづくりを推進している。	
緑の市民協働	造園という武器で持続可能なまちづくり（愛知県豊田市）	愛知県立猿投農林高等学校 環境デザイン科 作庭チーム SAKUR☆	採石産業の衰退と、豪雨災害による四季桜の群生地崩落により観光客が激減していた小原地区において、高校生が主体となり、未利用地で廃棄砕石を用いた庭園の作庭や四季桜の育成、植樹を行い、学んだ造園技術を活用した復興計画を実施している。豊川市の里山整備などにも取り組み、地域の自然環境の再生・保全にも寄与している。	

（別紙）

部門	作品名（場所）	受賞者名	概　要	
緑のまちづくり	未来へ引き継がれていく花のまちづくり （北海道東神楽町）	東神楽町	昭和 40 年代に「花いっぱい運動」が始まり、花を中心としたまちづくりを進めてきた。現在は、役場内の部署を統合した「花のまちづくり推進室」を創設し、持続可能を軸とした循環型の花のまちづくりを進めている。公共でガーデンを整備し、ボランティア活動の支援充実も進めており、環境にも人にも優しい活動を住民と共に実践している。	

◎都市緑化機構会長賞　＜２点＞

部門	作品名（場所）	受賞者名	概　要	
緑の市民協働	フラワーダイアログあおば ～花と緑の風土づくり （神奈川県横浜市）	認定特定非営利活動法人 森ノオト/ 青葉台ハニービープロジェクト	2018 年度に横浜市市民協働事業として、青葉区と協働で事業を開始し、公園愛護会の取材によって市民自治を応援し、団体同士がつながる機会を創出してきた。事業終了後も公園愛護会に参画し、横浜市内の緑化や地産地消活動の取材、活動団体の支援、横浜グリーンエクスポに向けた機運醸成への寄与など、「花と緑の中間支援」として発展している。	
緑のまちづくり	いたばしグリーンプラン2035 （東京都板橋区）	東京都板橋区	みどりを取り巻く社会状況の変化に対応するため、「グリーンインフラ」の推進や「連携・協働」の強化、「DX 活用」を３つの柱にすべての施策を展開するよう計画を改定し、これまでの緑の量の確保を基本に、緑の質を高め、その多様な力を最大限に活かすことで、区民の暮らしを豊かにし、ウェルビーイングを実感できるまちづくりを進めている。	

（別紙）

◎第一生命財団賞　＜1 点＞

部門	作品名（場所）	受賞者名	概　要	
緑の市民協働	白砂青松と 花いっぱいの まちづくり （福岡県福岡市）	特定非営利活動法人 はかた夢松原の会	博多湾の白砂青松を取り戻すため、1987 年に会を発足している。百道浜をはじめ博多湾沿岸で市民による松の植樹や間伐活動を続け、飛砂防止に寄与してきた。さらに 2012 年からは、放置自転車や不法投棄が目立つ国道の歩道にてプランター設置や花の植栽といった緑化活動を行い、歩行者の安全・安心な環境づくりに貢献している。	

◎奨励賞　＜2 点＞

部門	作品名（場所）	受賞者名	概　要	
緑の市民協働	子ども達とともに 地域の自然環境を 守るビオトープ 作り （大阪府吹田市）	土曜チャレンジ デーの会	都市化で子どもが自然に触れる機会が減少する中、在来種を中心とした生物多様性の保全を目的に、子ども達とともに田んぼとため池からなるビオトープづくりを行ってきた。生き物観察や、育苗から収穫まで手作りでの稲作などを通じて、参加者が「自然や地域との共生」や「循環型社会の可能性」を体感できる活動を行っている。	
緑の事業活動	西山拙斎 住居再生 プロジェクト （岡山県浅口市）	イカサ緑地株式会社	更地になる予定だった岡山県浅口市の偉人・西山拙斎の住居『至楽居』を購入し、建物改修と日本庭園の作庭を行い古民家カフェとして再生。伝統庭園や緑の心地よさを発信しつつ、若手庭師の技術講習や技能五輪の練習場など継承の場としても活用。地域の憩いの場や学習・イベント会場として緑化と地域活性化に貢献している。	

（別紙）

第 25 回　緑化技術コンクール　審査結果

全国から緑化施設部門 17 点、特定テーマ部門 1 点、計 18 点の応募があり、次の団体の受賞を決定しました。

◎国土交通大臣賞　＜2点＞

部門	作品名（場所）	受賞者名	概要	
緑化施設	虎ノ門 アルセアタワー （東京都港区）	独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部／大成建設株式会社一級建築士事務所／日本設計・三菱地所設計共同企業体（株式会社日本設計・株式会社三菱地所設計）	3D モデルによる照度検証、壁面緑化維持管理の基本方針の類型化により、持続性の高い立体緑化を有する緑化施設。赤坂・虎ノ門エリアにおける緑道構想の中核に位置し、大規模再開発において、都市の風景と歴史をつなぎ、建物と緑を一体化した模範的な緑化として高く評価された。	 © Kokyu Miwa Architectural Photography
緑化施設	KOMAZAWA Park Quater （東京都世田谷区）	株式会社イマックス／鹿島建設株式会社／長濱香代子庭園設計株式会社／株式会社ランドスケープデザイン	駒沢大学駅前の交差点に、地域に開かれたまちづくりの拠点として構想された緑化施設。2 階にはビオトープでの生物多様性の取組み、IT を活用した自動潅水等、適用可能な緑化技術を取り入れた高質なボリューム感のある緑地空間であり、地域コミュニティとの連携が高く評価された。	

◎環境大臣賞　＜1点＞

部門	作品名（場所）	受賞者名	概要	
緑化施設	ESR横浜幸浦 「金沢の森」 （神奈川県横浜市）	ESR株式会社／渡辺美緒デザイン事務所	2019年の台風被害を受けた既存樹林を再生し、生物多様性保全と雨水管理を統合したグリーンインフラ施設。段階的雨水貯留浸透システムを導入し、既存樹林の間伐や外来種除去、継続的なモニタリングを実施する等、ネイチャーポジティブに資する事例として高く評価された。	

（別紙）

◎日本経済新聞社賞　＜2点＞

部門	作品名（場所）	受賞者名	概要	
緑化施設	ニホン・ドレン社屋・工場（福井県福井市）	ニホン・ドレン株式会社／株式会社木下設計／株式会社スタジオテラ／石黒建設株式会社／土井造園土木株式会社／京都工芸繊維大学菅研究室／株式会社ベルックス	水にまつわるものづくり会社が「雨を纏う」というコンセプトをかかげた緑化施設。明確なコンセプト、ドレイン技術と配水、灌水設備等の融合により、雨水の循環的な再利用の有り様が、社屋の建築デザインと周辺のランドスケープと合わせて素晴らしく表現されている点が評価された。	
緑化施設	福武トレス時の庭（岡山県岡山市）	福武美津子／株式会社ＴＮＡ／荻野景観設計株式会社	1985 年に造営された庭園を造園家小形研三の自然造形思想を継承しながら復元・再生したプロジェクト。建築との融合や雑木林風の庭園という伝統的な庭として優れた風景が創造されている。歴史的庭園の思想を読み解き、現代記述で復元させた意義と技術の継承という点が評価された。	

◎都市緑化機構会長賞＜2点＞

部門	作品名（場所/製品・技術）	受賞者名	概要	
緑化施設	GREEN TERRACE 表参道（東京都港区）	株式会社ツチヤタケシ建築事務所／AWAI design／有限会社スリーエフ	「緑の記憶」「親と子の記憶」「素材の記憶」を継承しながら、誰もが自然を親しむことのできる緑化施設。柱型やらせん型のフェルト式壁面緑化など多様な緑化技術が採用され、大都市中心部において、小規模ながらデザイン性が高く、上品な緑地空間が創出されていることが評価された。	
緑化施設	神戸薬科大学1号館跡地「神薬ガーデン」（兵庫県神戸市）	学校法人神戸薬科大学/株式会社竹中工務店	斜面地に展開する大学キャンパスの緑化計画。急峻な地形において、既存建築物の基礎を完全に撤去せずに再利用することで、環境負荷と予算を抑え、旧校舎の記憶が活かされている。サーキュラー建築と緑のあり方として、利用者の利便性や快適性向上、緑地の付加価値を高めた点が評価された。	

◎2027年国際園芸博覧会協会特別賞　＜１点＞　該当なし